

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率＝予想値÷実績

令和7年5月末	令和7年8月末	令和7年11月見通し	令和8年2月見通し
±0トン 〔1956千トン〕 (100.0%)	-14千トン 〔1942千トン〕 (99.3%)	+8千トン 〔1950千トン〕 (100.4%)	-4千トン 〔1946千トン〕 (99.8%)
1980千トン (101.2)	1938千トン (99.8)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和7年6月末	令和7年9月末	令和7年12月見通し	令和8年3月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は134,900円。前期比-1,100円。5月GW以降、更に荷動きも悪く6月もその動きを引きずった。在庫量は横ばいだが、建築需要の乏しさから流通間の受注競争に伴う安値や安価な輸入材の影響で市況は弱含み、在庫の過剰感も感じられる。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は133,100円。前期比-3,900円。流通は仕入を抑え余分な在庫を持たない姿勢。人手不足、残業規制等の影響で工事が進まないことと9月迄の猛暑、天候等により更に工事の遅れが生じた。建築需要の低迷が鮮明に感じられた。	人手不足、働き方改革、資材高騰の影響により以前のような秋需はなかったが、夏場の悪い状況に比べれば荷動きは回復した。秋需を期待して若干積み増した分、期待がはずれ在庫がやや増加した感がある。年末に向け、建築、製造業向けとも、このまま低調な荷動きに留まるだろう。	年明け以降、しばらくは昨年比横ばいの需要で推移すると思われる。建設関連については、人手不足や働き方改革の影響、来春物件が具体的に見えていないこともあり、在庫を積み増す判断には至っていない。流通は我慢のしどころで在庫を抑制し、市況を維持し収益重視の販売に徹していくだろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

10月仕入量は145,944トン前月比+2.7%、前年同月比-5.1、販売量は149,182トン前月比+2.3%、前年同月比-7.4%。仕入量、販売量ともに前月比増加、前年同月比減少となりました。在庫量は182,732トン前月比-1.7%、前年同月比-11.8%、在庫量は前月比減少、前年同月比は著減しました。在庫率は122.5ポイントと下降しました。10月販売量は前月比増加しておりますが、稼働日分の増加に留まっており相変わらず前年割れの状況が続いています。

4. 大阪

10月は需要期で価格も底値感があり、H形鋼や一般形鋼の販売量は9月比、各々増えたが、11月は稼働日数減の影響が大きく、10月比での販売量は減少した。12月は11月比横ばい予想で需要面も横這い。

また自動車メーカー各社は、おおむね生産は回復してきており、生産水準を上げているメーカーもあるが、苦戦しているメーカーもあり濃淡がある。

1月～3月の需要見通しは、建築向けは需要の谷間で土木関係も目立った話は出て来ていない。物流倉庫やデータセンター等は来年も堅調に出て来そうだが、本格的な需要の盛り上がりは夏場以降になりそう。

関西ではIRも一部スタートしており、本格的に稼働するタイミングが不明ながらも今後の需要に期待したい。

新車販売も徐々に回復傾向だが、2023年以前の水準にはまだ達しておらず、依然として低水準での推移が続くと予想。特に米国向け輸出は関税動向によって数量が変動する可能性が高く引き続き注視が必要である。メーカー各社は生産調整や販売戦略の柔軟な対応が求められる期間となる見通し。